

トラフグのふ化仔魚放流（2021）



今年度も昨年度に引き続き、与島漁協の岩黒島の漁業者、高松市瀬戸内漁協の漁業者がトラフグふ化仔魚放流を行いました。

（トラフグの生態や漁獲量などの情報は、トピックスの[高級魚トラフグのふ化仔魚放流](#)をご覧ください。）

今年度は、前年度のアルテミアふ化槽（0.5kL）よりも容量の大きな 1kL のアルテミアふ化槽を用いてふ化仔魚放流に取り組みました。

放流結果は、以下の表のとおりとなりました。

令和3年度トラフグふ化仔魚放流結果

採卵日	収容場所	収容卵量(g)	収容卵数(粒)	ふ化率(%)	放流日	放流ふ化仔魚数(尾)
4月25日	与島	3,750	2,250,000	78.6	5月7日	1,768,000
4月26日	瀬戸内	900	540,000	0.009	5月8日	47
4月25日	瀬戸内	水試からふ化仔魚を提供			5月8日	10,000

※1gあたりの基準卵数：600粒

○ 人工授精から収容まで



① 採精（雄から精子を絞る）



② 採卵（雌から卵を絞る）



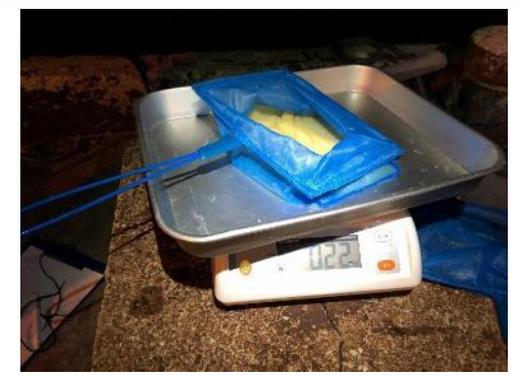
③ 受精の準備（精子と卵を混ぜる）



④ 受精（海水を入れる）



⑤ 洗浄（不要な精子を洗い流す）



⑥ 重量の測定（卵数を計算）

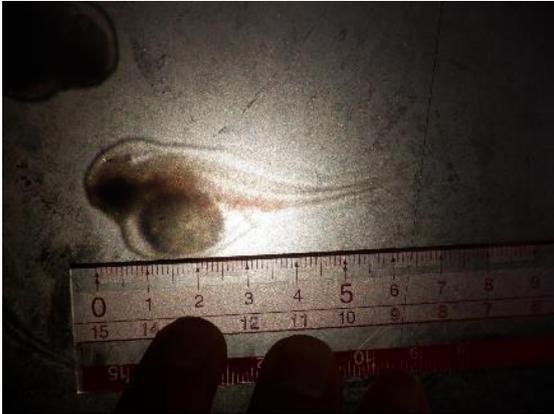


⑦ 収容準備（卵に吸水させる）



⑧ 収容（アルテミアふ化槽へ）

○ふ化仔魚の放流

	
放流準備（船にタンクを積込む）（与島）	放流場所へ（瀬戸内）
	
放流前のふ化仔魚	今回、ふ化した仔魚（20倍で撮影） 平均は 3.0mm 程度

今年度は、採卵初日に受精のピークがあったようです。1日目の与島漁協分は卵質も良く、安定したふ化率でした。2日目の採卵時には、排卵が終わった個体が多く見られ、卵質も安定しませんでした。その結果、2日目に高松市瀬戸内漁協で収容した卵のふ化率は非常に低いものとなってしまいました。

結果の良い悪いにかかわらず、漁業者が自ら資源を増やすこのような取り組みは、今後も続いてほしいものです。

（文責 主任技師 林和希）